

※ 番号は系譜図に対応しています。

	浮世絵師	よみかた	生没	紹介
1	初代歌川広重	しょだい うたがわひろしげ	寛政9年(1797年) - 安政5年(1858年)	江戸後期における風景版画の第一人者。『東海道五拾三次』や『名所江戸百景』など、旅情あふれる連作風景画を多く手掛け、葛飾北斎と双璧を成した。
2	二代歌川広重	にだい うたがわひろしげ	文政9年(1826年) - 明治2年(1869年)	初代広重の門人で初号を重宣という。師の没後に広重の娘婿となり、二代広重を名乗った。初代の画風を受け継ぎながら、東海道や各地の名所、開港後の横浜風景などを描いた。
3	三代歌川広重	さんだい うたがわひろしげ	天保13年(1842年) - 明治27年(1894年)	初代広重の門人で初号を重政という。広重の娘婿である二代広重が離縁して家を離れた後、改めて娘婿となって広重を襲名した。明治期の東京や横浜を舞台に、文明開化の風景や新しい風俗を描いた。
4	歌川豊春	うたがわとよはる	享保20年(1735年) - 文化11年(1814年)	江戸中期の浮世絵師で、歌川派の祖。西洋の遠近法を取り入れた「浮絵」を得意とし、江戸の名所風景などを描いた。初代歌川豊国や歌川豊広を育て、後の浮世絵界に大きな影響を与えた。
5	初代歌川豊国	しょだい うたがわとよくに	明和6年(1769年) - 文政8年(1825年)	歌川豊春の門人で、歌舞伎役者の個性を巧みに表現した『役者舞台之姿絵』で人気を博し、役者絵の名手として活躍した。初代豊国・国芳をはじめ多くの門人を輩出し、歌川派を大きく発展させた。
6	初代歌川国貞(三代豊国)	しょだい うたがわくにさだ(さんだい とよくに)	天明6年(1786年) - 元治元年(1864年)	初代歌川豊国の門人で、後に師の雅号を継承して三代豊国を名乗った。師の画風を継承して役者絵や美人画で多大な人気を誇り、江戸後期最大の門派である歌川派の総帥として一門の隆盛に大きく貢献した。
7	歌川国丸	うたがわくにまる	寛政5年(1793年) - 文政12年(1829年)	初代歌川豊国の門人。合巻(江戸期の長編絵入り小説)の挿絵や美人画、役者絵、浮絵など、幅広いジャンルで手腕を発揮し、同じく初代豊国門下の国貞・国安・国直・国政らと共に豊国の主要門下の一人として活躍した。
8	歌川国直	うたがわくになお	寛政7年(1795年) - 嘉永7年(1854年)	初代歌川豊国の主要門人の一人。草双紙の挿絵や役者絵、美人画など多様なジャンルで活躍した。他、中国元・明代の絵画や洋風画法も研究し、特に洋風画の表現を取り入れた風景画を描いたことでも知られる。
9	歌川国芳	うたがわ くによし	寛政9年(1798年) - 文久元年(1861年)	初代歌川豊国の門人。歴史上の豪傑を題材とする「武者絵」を得意として人気を博した他、奇抜な表現による風刺画をや、愛らしい猫を題材にした作品など、ユーモラスな浮世絵を数多く手掛けたことでも知られる。
10	橋本貞秀	はしもとさだひで	文化4年(1807年) - 明治12年(1879年)	初代歌川国貞の門人。風景を高い視点から俯瞰的に眺めた構図で描く「鳥瞰図」を得意とし、各地の名所風景や幕末の時事的な出来事を描く他、横浜開港後の風俗を題材とする「横浜絵」でも名声を得た。
11	二代歌川国貞(四代豊国)	にだい うたがわくにさだ(よんだい とよくに)	文政6年(1823年) - 明治13年(1880年)	初代歌川国貞の門人で、その娘婿。二代国政の雅号で活動した後、師の初号を継いで二代国貞となり、さらに師の没後に四代豊国を襲名した。役者絵や美人画を中心に、幕末から明治初期にかけて活躍した。
12	歌川国利	うたがわくにとし	弘化4年(1847年) - 明治32年(1899年)	三代豊国・二代国貞(四代豊国)の門人。幕末・明治期に活躍した浮世絵師であることから、開化風俗を題材とした開化絵や横浜絵に多く作品を残している。
13	二代歌川国輝	にだい うたがわくにてる	天保元年(1830年) - 明治7年(1874年)	三代歌川豊国の門人。はじめ豊国門下の他の絵師の名跡を継いで活動するが、後に同門の国輝の雅号を継承した。特に幕末・明治期の開化風俗に着目し、鉄道や洋風建築などの新時代風物を描いた作品を多く残した。
14	歌川芳藤	うたがわよしふじ	文政11年(1828年) - 明治20年(1887年)	歌川国芳の門人。多数いた浮世絵師の中でも、特に立版古(組み立て絵)や双六絵といった子ども向けの浮世絵「玩具絵」を多く手がけ、玩具絵の名手として名を馳せた。

※ 番号は系譜図に対応しています。

	浮世絵師	よみかた	生没	紹介
15	月岡芳年	つきおかよしとし	天保10年(1839年) - 明治25年(1892年)	歌川国芳の門人。精緻な表現で歴史画や美人画といった多様なジャンルを手掛け、明治期には時事的な出来事を描く新聞錦絵でも活躍した。歌舞伎の残酷な場面や、凄惨な出来事を描いた「血みどろ絵」の名手としても著名。
16	四代歌川国政	よんだい うたがわくにまさ	嘉永元年(1848年)～大正9年(1920)	三代歌川豊国・四代歌川豊国の門人で、幕末から明治期に活躍した。役者絵の他、明治期の開化風俗を題材とした開化絵を得意とし、鉄道や東京の新名所などを多く描いた。
17	歌川芳虎	うたがわよしとら	生没年不詳。江戸時代末期から明治時代中期	歌川国芳の門人。特に明治以降、開化風俗を題材とした「開化絵」を多く描いて、その代表的な絵師として活躍した。慶応3年(1867)のバリ万博で江戸幕府が出展した「浮世絵画帖」を手掛けた浮世絵の一人としても知られる。
18	歌川房種	うたがわ ふさたね	生没年不詳。江戸時代末期から明治時代	初代歌川国貞門下である歌川貞房の門人。幕末期から名所絵や、小説『修紫田舎源氏』に取材した「源氏絵」のジャンルで作品を残すが、維新後は開化絵や新聞挿絵を手掛けた。
19	二代歌川芳艶	にだい うたがわよしつや	生没年不詳。江戸時代末期から明治時代	歌川国芳門下の初代歌川芳艶の門人。詳細な経歴は未詳だが、幕末より作画をはじめており、明治10年(1877)頃まで絵師としての活動を続け、東京名所や明治の時事的な出来事を題材とした浮世絵を残している。